

平成29年度大阪府立八尾支援学校 第1回学校協議会報告

平成29年7月7日

□日 時 平成29年7月7日(金) 午前10時～12時

□場 所 大阪府立八尾支援学校 生活科室

□テーマ

- 平成29年度学校協議会委員の紹介
- 平成29年度学校協議会事務局の紹介
- 平成29年度学校協議会長の選出
- 学校協議会実施要項(案)
- 平成29年度八尾支援学校概要
- 学校より報告

□学校協議会委員

岡崎 裕子	(大阪大谷大学 教育学部 教授)
奥野 美和子	(東大阪子ども家庭センター 課長補佐)
御前 敬	(八尾市障がい福祉課 課長)
唐渡 清美	(東大阪市療育センター 第一はばたき園 園長)
竹井 雅代	(本校PTA 会長)
山崎 高義	(東大阪市障害者就業・生活支援センター 所長)

□学校協議会事務局

岡本 泰宜	(教頭・小/高)	山田 美也子	(教頭・中)
山崎 静一	(事務長)	荒木 智恵子	(首席)
井川 忠都	(首席)	横山 眞二	(首席)
山本 耕平	(首席)	松村 由美	(部主事・小)
長谷川 次郎	(部主事・中)	荒木 聖	(部主事・高)

□協議会 内容

1 学校長挨拶

九州の大雨被害にお見舞い申し上げますとともに、学校の安全面について今一度検討する。本年度創立50周年の年、常に人権面に留意しながらしっかりと取り組みたい。(50周年記念マスコットキャラクター「やおりん」、クリアファイル・マフラータオル作成等の紹介) いろいろなご助言をいただきながら、50年節目のしっかりとした1年としたい。

2 委嘱状交付

唐渡 清美 様(東大阪市療育センター 第一はばたき園 園長)
竹井 雅代 様(本校PTA会長)

3 平成29年度学校協議会委員の紹介

4 平成29年度学校協議会事務局の紹介

- 5 平成29年度学校協議会長の選出
会長 岡崎 裕子 様（大阪大谷大学 教育学部 教授）
- 6 学校協議会 実施要項（案）
昨年度と少し変わった点 第8条の傍聴規定を新たに追加した。
- 7 平成29年度八尾支援学校概要

○学校経営方針

★校長より（小・中学部） 学校経営計画について

めざす学校像 3年前に赴任してから大きく変更点はない。本校の児童生徒の教育についての指導・支援と、地域における支援教育力の向上という「双方向性」で取り組んでいく。

中期的目標

1 支援学校における教育力の向上、組織としての専門性向上

- (1) 個別の支援計画について、作成は当然となったのでしっかり活用していく。
- (2) すべての児童・生徒への教育内容、指導方法等、授業の質を向上させていく。
- (3) 若手の教員の中から次世代ミドルリーダーを早くから育成する。
- (4) ミドルアップダウン型の学校経営―首席、部主事、分掌長が主軸になって学校経営の目標を具現化するとともに、広く吸い上げて行っていく。
- (5) 自己診断結果を評価指標とし、28年度の結果に基づき、改善を図る。

2 自立・自己実現、社会参加に向けたキャリア教育・進路指導の充実

准校長より、のちほど詳細を述べる。

3 センターの機能の充実・発揮と、開かれた学校の推進

昨年度、一昨年度は中河内ブロックの推進校であったが、今年は東大阪支援学校が担う。

4 安全・安心な学校づくりの推進

防災については、地域との連携を少しずつ進めていく。

自己診断（28年度）で、施設・設備の安全に関する取り組みについて、保護者の結果が高かったが教職員の方が少し低かったので、反省し取り組みを進めていく。

本年度の取り組み（具体的に説明する。特に新しいところ）

- 1** (1) ①それぞれ子どもさんの特性に応じた授業・指導は、従来から取り組んできているところであるが、障害者差別解消法施行に伴い、改めて優先課題や配慮事項などを明確にし、合理的配慮として個別の指導計画に明記し、進めていく。
③授業アンケートに取り組むとともに、校長・准校長・教頭による授業観察を行い、授業力向上に努める。
- 2** (1) ①「キャリア教育発達段階表を基にした評価規準を各部で活用。項目ごとに効果測定を行う。」→実際の表を見ていただく。
昨年度保護者にライフスキルについてアンケートをとらせていただき作成。これまで各部で取り組んできているが、ひとつのチェックリストとしてこれを活用し、3学部を同じテーブルにのせてキャリア教育に取り組んでいく。3カ年はチェック等を行い、保護者のご意見をいただきながらよりよい形でキャリア教育の中身について検討し具体的に進めていく。
- 3** (1) ①巡回相談は、最近「訪問」という言い方になった。昨年度より、「拠点校型の地

域支援」(八尾市・東大阪市の中学校校区を中心とした体制)に取り組み始め、今年は府立高校からもニーズを多く頂戴している。リーディングスタッフ2名が主に校外支援に取り組む。また、居住地校交流も年々ニーズが増えている中で今年もしっかり取り組む。

4 安全安心な学校づくりについては、これまでと同様に取り組んでいく。

★准校長より(高等部) 学校経営計画

高等部のめざす学校像と長期的目標は、小・中と同じである。着任時は高等部が本校に帰ってきた2年目で、今後は教育力の向上に力を入れる。

1 (1) ②「新教育課程の実施・教科会議の充実」を特に力を入れている。

「自立活動」を給食から朝のベーシックタイム・帰りの会に、また昼休みを特別活動にと、位置づけを押し直した。家庭科は1年にはなかったが全学年履修とし、また国語・数学が学年によって単位数が違っていたものを統一、全員が情報を履修、職業コースと一般コースも教育課程上は全教科同一履修とした。職業のあり方の論議の末、「軽作業」を取り入れたところ、生徒たちが一生懸命に取り組み、非常に良い結果を生んでいる。学年単位ではなく学部単位でということ今年度のテーマとしている。

(2) ①「T・T(ティームティーチング)の分担」について

授業アンケートの中にもご意見があり、引き続いて今年度しっかりと取り組みたい。

(4) ②生徒用自己診断項目について

「学校に行くのが楽しい」→82%から85%にしたい

不登校ぎみの生徒が今年度減りうれしいところである。引き続きがんばりたい。

2 キャリア教育の充実

・1年生のフロンティアコースは昨年度校外実習がなかったが、今年度から入れられた。会社見学や職場実習の機会も増やしてきているが、自己診断の結果として肯定的意見が8割届かず、教職員とのギャップがあった。生徒用の「進路について教えてもらえる」も59%で、教職員の取り組みの伝え方など考えていく。

・小中の保護者にも、キャリア教育は企業就労だけではなく福祉就労も含まれること、ルールを守る・友だちと仲良くするなどすべてつながっていくことを広く発信していきたい。

・夏休みの作業所実習を受けてくださる事業所が増えてきたこと、実習の巡回に高等部だけではなく小・中の教員も行きたいと声がるようになったことがうれしいことである。

・中学部3年生の生徒対象に、高等部3年フロンティア生が企業実習報告会を行った。

3 センターの機能の充実

小・中学校が中心であるが、来年度より高校で通級指導が始まるという動きがあり、今後は高校ともさらに連携していきたい。

4 安全・安心

・体罰事象について忘れることなく、引き続きしっかり取り組んでいく。

・防災マニュアルの八尾市との連携、すでに八尾市危機管理室と行っているがさらに深めていく。PTAには備蓄品の整備等感謝申し上げる。

【質疑応答、ご意見】

Q: キャリア表の取り組みを3年行うことについてもう少し説明していただければ(委員C)

A: 「キャリア教育発達段階表を基にした評価規準」について説明。

*全校で一貫した評価規準が必要であろうということで、キャリア教育を系統的にしてい
くために考えたもの。①児童・生徒の「今できていること」と「これからがんばっていく
こと」を見える化し、個別の教育支援計画等の目標設定に活用する。②全職員で、キャ
リア教育に関する見通しを共有する。以上2点を目的としている。

担任によりチェックし目標設定に活用するという取り組みを、とりあえず3年行ってそ
れを引き継ぎ、改善、修正もしながらともかく取り組んでいく。(校長)

*昨年度キャリアPT発足し、1年かけて作成した。キャリアの視点をもって日々の教育
活動を行っていくことを最大の目的とする。1年目である今年度、担任に活用していけ
るという実感を持ってもらうことが大切。2学期以降、どう授業に採り入れていけるか
の討議や意見交流、研修などを通じて、3年間かけて身近になればと考えている。(首席)

ご意見：「できそう・芽生え」を気付く教員の力を高めるヒントになることに期待する。△のと
ころ、「〇〇の支援があればできる、〇〇の場面でできた」などを大事にして。(委員A)

Q：3年とりあえず校内の先生方と共有されるということか？保護者にはどのように伝えら
れるのか。高卒業してから進路先に行かれる時に伝えられるのか、また実習に行かれる
時に使えるのかなど、どのような見通しがあるのか(委員F)

A：*保護者の方へはライフスキルアンケートの結果もお示しし、自己診断結果もプリント
とHPでお知らせしているので、学校の取り組みとして進捗状況をお伝えしたい。
引継ぎの資料としては、進路先が求めておられることを考えつつ、個人情報として、他
の支援学校とも連携しながら、整えていきたい。(校長)

*「～できるけど～は難しく、こういう支援をすればできる」など移行支援計画には落
とし込むことが必要と考える。これについて教員の書く力ももう少しスキルアップした
い。中から高へなど学部移行時にこそこれが活用できるのではと考える。せっかく作
ったので、せめて3年とりあえずやって検証したい。(准校長)

ご意見：*学校と福祉をつなぐアイテムとなれば。学校での教育目標と地域に出た時に障害福
祉の特別支援とリンクさせ支援をより充実したものにできる、そこに期待する。(委員F)

*就学前の子どもたちは〇×だけでは語れず、そこに至るまでの芽生え行動をどうひろっ
ていくかがとても大事で、そのあたりを今後見ていただきたい。この指標は地域に
もあるものか、八尾支援のものなのか。(委員D)

A：八尾支援独自のものであるがベースがある。国立特別支援教育総合研究所で知的障がい
の方向けのキャリア教育プログラムで作られたものがあり、それをたたき台としている
が、他の支援学校でもそれを元にキャリアプログラムを作るというのは全国的にされて
いる。保護者からよく言われる「引き継ぎ」の点、また先ほどから出ている「芽生え反
応」にしっかり気づくという点でも、活用していけるものにしたい。(校長)

Q：LSの訪問について。1. 5倍に増えているとあったが具体的な数は？福祉の相談支援
でも出ており、在学中から協力していければ(委員F)

A：研修講師も含めると昨年は約30件。今年は八尾市の巡回相談チームに参加させてもら
い、前期で8校、後期に12校回るのが新たに増えた。東大阪市も少しずつ増えている。
地域の先生方に「相談にのりますよ」ということをどう発信していくか、まだまだ知っ
てもらうことが大事な段階。地域では授業がメインとなっているが、先ほどのキャリア
段階表での視点も、自立活動場面など大事ですよと地域に伝えられたら。(首席)

Q：地域から要請があって初めて行かれるのか。（委員D）

A：ニーズがうまく上がってくるにはどうすればよいか、広げることを頑張っている。（首席）

Q：巡回→訪問とことばを置き換えるのか？（委員A）

A：巡回相談→訪問相談に置き換え、内容は変わらない（校長）

Q：不登校気味の方のお話で、どの程度あるのか。地域でも増えていて、こういった場所で過ごしているのかなど、テーマにあがっている（委員A）

A：いろいろなケースがある。中学部で教員がいろいろとアプローチしたが登校に結びつかなかった。高等部という環境の変化により改善したかと思う。90日中1日も来れていない生徒は0になった。社会に出て行くという意識付けから、校外に実習に行くことを発端にするアプローチもできている。お家の方がヘルプを伝える、また福祉の風を家庭に入れるのもひとつの方法。スクールカウンセラーはあるがスクールソーシャルワーカーの配置はなく、そういう取り組みもあればと思う。（准校長）

○各学部紹介（別冊 各学部の「教育相談のしおり」を参照に）

小学部

- 児童数、昨年度より10名増える。

～教育課程～

（せいかつ）ライフスキル、身辺自立、大きな柱として取り組んでいる。担任との関係を築く中でスキルアップを図る。「あそび」も含まれる。子どもが好きなもの、場所を作り、発信する力につなげていく。朝の会、帰りの会でも一日の見通し。

（生活科）小学校という理科社会、家庭科の内容。ものに向かう姿勢づくりというキャリア教育の元になる取り組み。

（かず・ことば）発達段階でグループ分け。集団として友だちといっしょに。教材を工夫。

（自立活動）給食、コミュニケーション、からだ・運動面

（徒歩学習）週に1回。高学年につれ距離も増え、交通ルールなどについての指導も。

（なかよし集会）月2回。児童会が進行

（交流）学校間交流 4～6年生と上之島小4年生、年に3回。本校3年生としょうとく園。

- 昨年度より、1～3年で一日午後の授業が増えた。

中学部

- 「集団」クラス・学年・学部で動くということに慣れてきている。今では落ち着いて学部集会に参加できる。いろいろな行事を終えて、集団の力・個々の力も高まる。
- 生徒数 人数が多いのが特徴。
- 時間割の変更 今年はない。水・金アクティブ→総合的な学習としてさまざまな活動。H31年度道徳の教科化に伴い、これまで「こころとからだ」→今年度「道徳」の時間としてアクティブタイムの中で学年で何時間か取り組む。主体的・協働的な力を育成。
- 教科 習熟度制 国～理8グループ 音・美3グループ 作業2回
- わくわくタイム 必須クラブ
- 年間行事 50周年記念式典 八尾プリズムホール
- 進路状況（多様化）昨年受検2割。相談も多く、学校見学会の案内なども進めている。

高等部

- 社会人に向けての教育活動 卒業後の社会生活を見越した力

～教育課程～

- ・ 国語の中で外国語の活動も
- ・ 職業（→昨 実習）週に1時間は軽作業（組み立て、封筒入など） 成果が表れている
- ・ フロンティアコース 生活実践 卒業後の自立に向けての授業（ビジネスマナー、実習等）
- 夏休み中も 府庁実習や作業所実習

○進路指導部より 平成28年度卒業生の進路状況について

- 卒業生36名→就職6名 大阪市職業リハビリテーションセンター→1名
- 27年度と比較すると就職者が少し増えている。
- それぞれの特性に応じた進路先へ決定。
- 昨年度の卒業生で今のところ離職者はおらず順調。
- アフターケアで卒業生全員のところへ訪問予定。

8 第1回授業アンケート 集計結果

1～5の観点で4種の回答。のべ271名が参加250名から回答。（回収率92.3%）
昨年と比較して高等部の回収率が上がった。全体的に見て肯定的意見が多かった。中には授業改善に向けて建設的なご意見もあり、自由記述欄を授業者に返して今後の授業に役立てる。授業参観期間3日のうち1日をアンケート実施日として実施。

（首席）小学部は、1年生がしっかり学校に慣れてきてからということで少し遅めの設定になった。各部とも宿泊学習の説明会などの日をアンケート実施日にする。

（委員A）そういう設定は大事ですね。

（委員E）働いておられる保護者も多いので、3日間どの時間帯でも良いのはありがたい。

（委員C）自由記述欄の内容も見てみたい。

（校長）授業アンケート・授業観察が教員の評価につながる。アンケートは厳封して提出していただく。教員へアンケート内容を返すときは誰か分からないようにしている。文字としては支障があるかなと思うので、口頭で報告させていただく。

★質疑応答

Q：高等部のところで、軽作業を入れることが良かったとあったが、具体的には。（委員A）

A：軽作業入れることで手の巧緻性が高まり、木工や窯業でもみな同じような能力が達成できるように置き換わったと感じる。具体的には、作業所に協力してもらい実際のものをお借りしている。袋詰めやおもちゃを作るようなものをいつまでになど。生徒たちも達成感を得てがんばっている。（部主事）

9 准校長挨拶

教員の外来者へのあいさつが増えたことが嬉しい。直通の外線電話を各学部割り振り、教員が電話に出る機会も増え、社会人としてのライフスキル向上につなげていく。50周年に向けてみなでがんばっていくので、今後ともご助言よろしくお願いしたい。